

# 在宅医療・介護に関するアンケート調査結果

医療福祉連携推進課

## 1 調査目的

今後の在宅医療・介護施策推進の参考にするため、在宅医療・介護に対する皆さんの率直なご意見やご感想を伺いました。

## 2 調査対象等

調査対象: 県政モニター803人(郵送モニター:306人 インターネットモニター:497人)

調査方法: 郵送及びインターネット

調査期間: 令和4年8月9日～8月29日

回収結果: 721人(回収率89.8%)

構成比はパーセントで表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

そのため、合計が100%にならない場合があります。

## 3 結果概要

### ○希望する療養場所について

死期が迫っている場合に療養する場所について「自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院」「自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院」「最後まで自宅で療養」を合わせて61.9%と在宅療養を希望する割合が高かった。

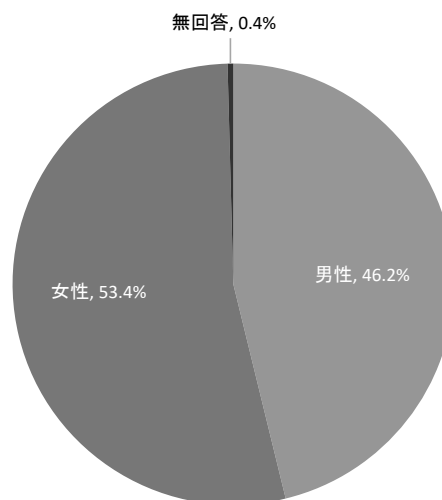
### ○自宅での療養について

死期が迫っている場合に最期まで自宅で療養することについて、「困難である」が59.8%と最も高く、そのうちの91.2%が「介護する家族に負担がかかる」をその理由としている。また、次いで「症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安」を困難な理由とした割合が54.5%で高かった。

## 4 回答者属性

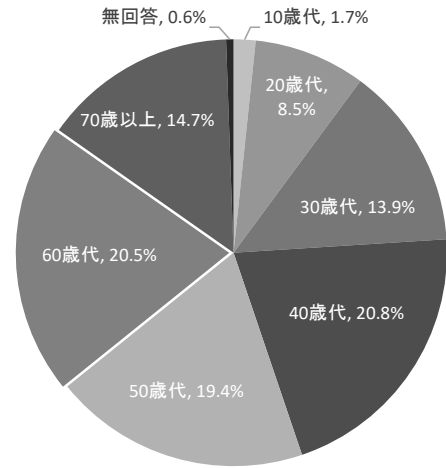
### (1) 性別

	人数	割合
男性	333	46.2%
女性	385	53.4%
無回答	3	0.4%
計	721	100.0%



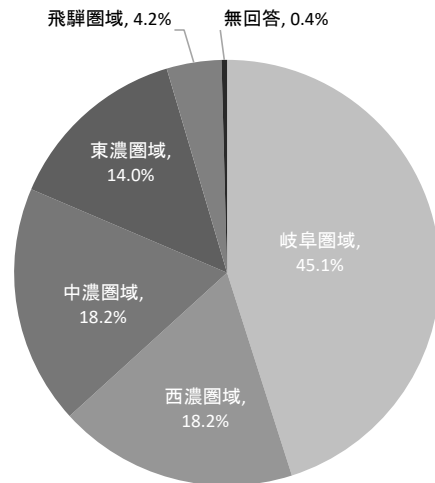
(2) 年代別

	人数	割合
10歳代	12	1.7%
20歳代	61	8.5%
30歳代	100	13.9%
40歳代	150	20.8%
50歳代	140	19.4%
60歳代	148	20.5%
70歳以上	106	14.7%
無回答	4	0.6%
計	721	100.0%



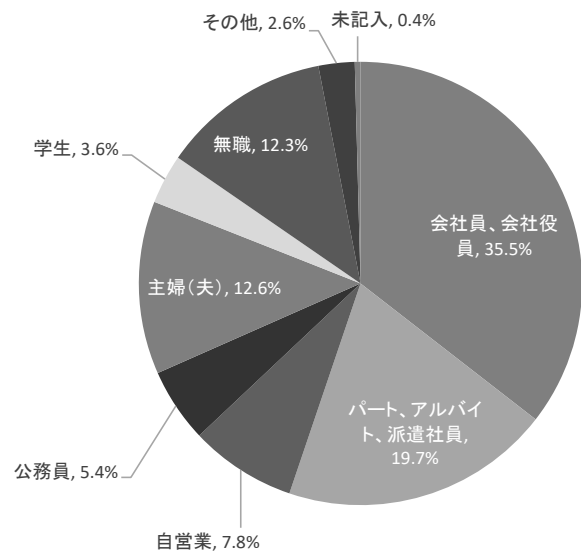
(3) 居住圏域別

	人数	割合
岐阜圏域	325	45.1%
西濃圏域	131	18.2%
中濃圏域	131	18.2%
東濃圏域	101	14.0%
飛騨圏域	30	4.2%
無回答	3	0.4%
計	721	100.0%



(4) 職業別

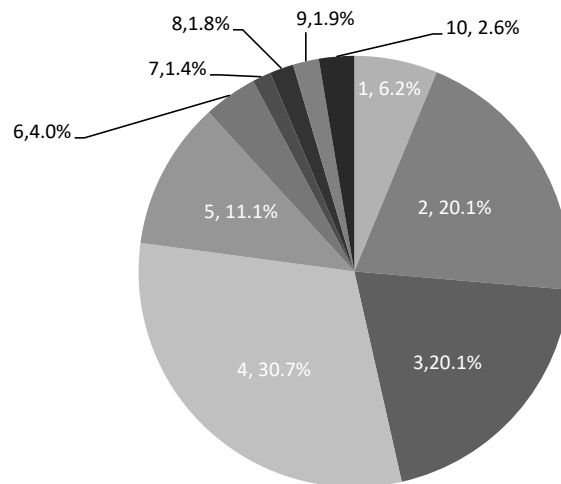
	人数	割合
会社員、会社役員	256	35.5%
パート、アルバイト、派遣社員	142	19.7%
自営業	56	7.8%
公務員	39	5.4%
主婦(夫)	91	12.6%
学生	26	3.6%
無職	89	12.3%
その他	19	2.6%
未記入	3	0.4%
合計	721	100.0%



## 5 調査結果

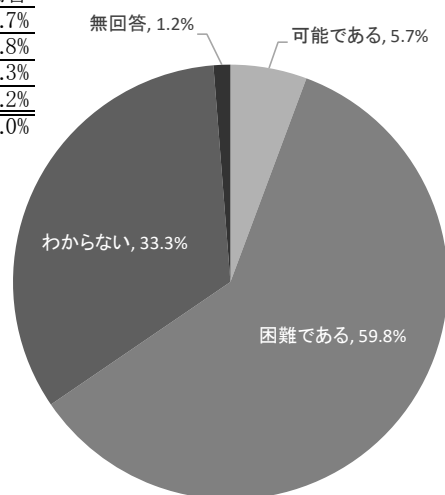
問1 あなたが仮に病気等で治る見込みがなくなり、死期が迫っている(6カ月程度あるいはそれより短い期間を想定)と告げられた場合、療養の場所はどこを希望しますか。(次の中から1つ選択)

	回答数	割合
1 なるべく今まで通っていた(または現在入院中の)医療機関に入院したい	45	6.2%
2 なるべく早く緩和ケア病棟(終末期における症状を和らげるための病棟)に入院したい	145	20.1%
3 自宅で療養して、必要になれば医療機関に入院したい	145	20.1%
4 自宅で療養して、必要になれば緩和ケア病棟に入院したい	221	30.7%
5 最期まで自宅で療養したい	80	11.1%
6 専門的医療機関(がんセンターなど)で積極的に治療を受けたい	29	4.0%
7 老人ホーム等の介護施設に入所したい	10	1.4%
8 その他	13	1.8%
9 わからない	14	1.9%
10 無回答及び無効回答	19	2.6%
計	721	100.0%



問2 あなたは最期まで自宅で療養できると思いますか。

	人数	割合
可能である	41	5.7%
困難である	431	59.8%
わからない	240	33.3%
無回答	9	1.2%
計	721	100.0%

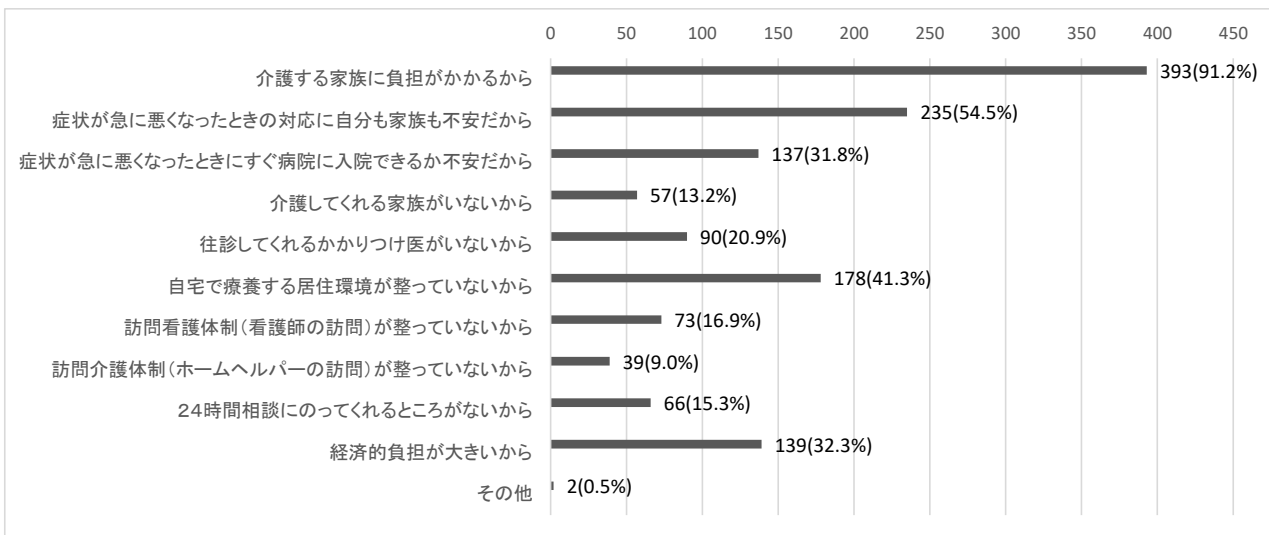


問3 (問2で「困難である」と答えた方)

困難であると思う理由を次の中からすべて選んでください。(複数回答)

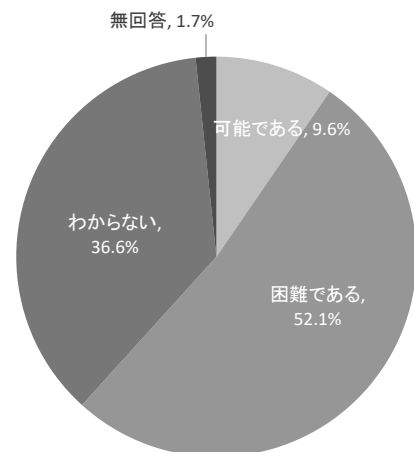
回答者 431人

	回答数	割合
介護する家族に負担がかかるから	393	91.2%
症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安だから	235	54.5%
症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	137	31.8%
介護してくれる家族がないから	57	13.2%
往診してくれるかかりつけ医がないから	90	20.9%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	178	41.3%
訪問看護体制(看護師の訪問)が整っていないから	73	16.9%
訪問介護体制(ホームヘルパーの訪問)が整っていないから	39	9.0%
24時間相談にのってくれるところがないから	66	15.3%
経済的負担が大きいから	139	32.3%
その他	2	0.5%
計	1409	—



問4 あなたは自分の家族が最期まで自宅で療養できると思いますか。

	人数	割合
可能である	69	9.6%
困難である	376	52.1%
わからない	264	36.6%
無回答	12	1.7%
計	721	100.0%

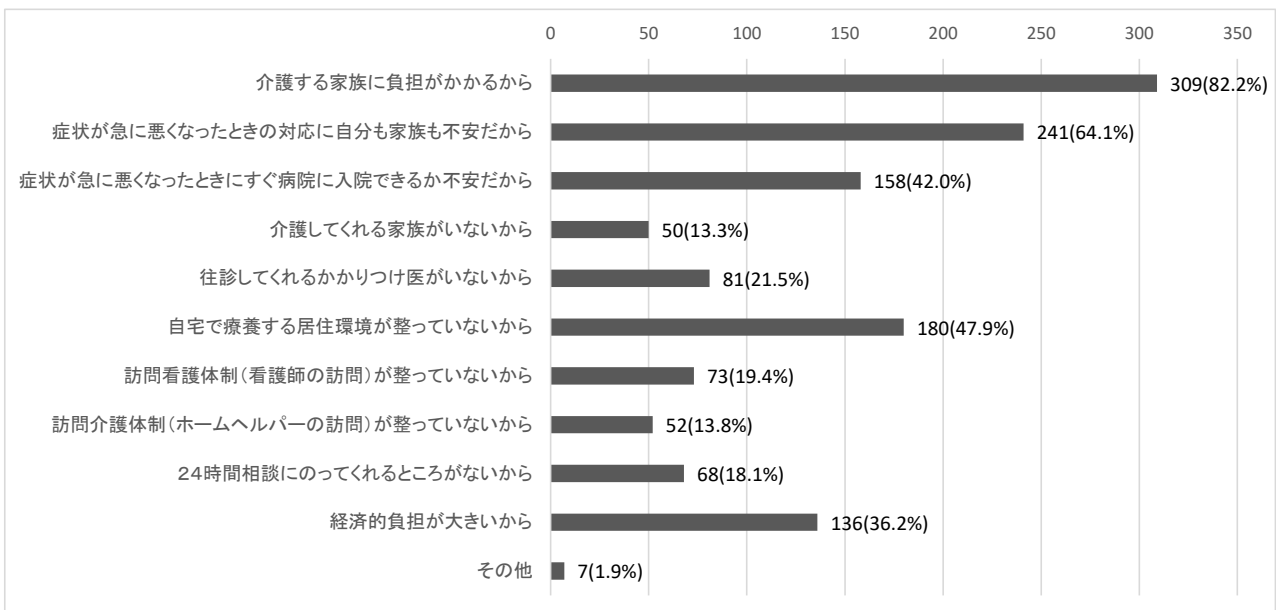


問5（問4で「困難である」と答えた方）

困難であると思う理由を次の中からすべて選んでください。（複数回答）

回答者 376人

	回答数	割合
介護する家族に負担がかかるから	309	82.2%
症状が急に悪くなったときの対応に自分も家族も不安だから	241	64.1%
症状が急に悪くなったときにすぐ病院に入院できるか不安だから	158	42.0%
介護してくれる家族がないから	50	13.3%
往診してくれるかかりつけ医がないから	81	21.5%
自宅で療養する居住環境が整っていないから	180	47.9%
訪問看護体制（看護師の訪問）が整っていないから	73	19.4%
訪問介護体制（ホームヘルパーの訪問）が整っていないから	52	13.8%
24時間相談にのってくれるところがないから	68	18.1%
経済的負担が大きいから	136	36.2%
その他	7	1.9%
計	1355	—



問6 在宅医療または介護についてご意見・ご要望・ご感想などがございましたら、お聞かせください。(主な意見)

○在宅医療・介護の体制整備

- ・最後まで面倒を見てくれる施設が多くできることを願う。
- ・施設入所待ち人数の改善が必要である。

○人材の確保

- ・医療従事者と在宅医療をつなぐシステムの構築
- ・個々の事情を踏まえてアドバイスできる人材の育成
- ・在宅医療に対応できる医師の増加を求める。
- ・介護職を目指す人材育成に向け、資格取得等の支援

○相談体制

- ・気軽に相談するところがない。
- ・本人も介護者も困った時に直ぐ相談を受けられる制度があると安心。
- ・近隣市町村のネットワークの共有が必要。

○デジタルを活用した取組み

- ・人材育成・確保とともにデジタル技術を十分に活用した社会を整えてほしい。
- ・入院の場合でもビデオ通話等、簡単にコミュニケーションがとれるシステムの構築を求める。
- ・在宅療養するための手続きが簡素化できるといい。

○普及啓発

- ・手続きなどインターネットなどで分かりやすく発信して欲しい。
- ・在宅医療の内容やサポートについてパンフレットやインターネット等で周知してほしい。
- ・在宅医療を受ける本人の喜んだ事例等、在宅医療を具体的に想像しやすい情報の提供を求める。
- ・予防の観点から、県民に食事や運動、休養、心の持ち方などの啓発

○医療従事者の待遇改善

- ・急変時の対応や、24時間休みが取れないなど医療従事者の待遇改善に早急に取り組んでほしい。
- ・介護職員の高齢化が問題と感じる。

○経済的支援

- ・物価高と年金額の減少で、施設等に入所することは困難である。
- ・所得によらず、すべての人が在宅医療を受けられるようにしてほしい。
- ・在宅医療に必要な医療機器や住宅のリフォーム等補助金
- ・入所利用料の軽減等、在宅医療が困難な場合の経済的補助

○在宅医療・介護を取り巻く社会的環境

- ・ヤングケアラーの実態を周知するべきである。
- ・老々介護を一人で行うには限界がある。
- ・男女問わず働く時代になり、仕事をしながら在宅医療は困難である。